

## 献呈の辞

2015年は、敗戦後70年の年であったが、日本国憲法が禁じる集団的自衛権の行使を可能とするかのごとき安全保障関連法の憲法問題をめぐる熱い議論が闘わされた。なにより耳目を集めたのは、SEALDsの若者たちを中心に、これまで政治や憲法問題に無関心と考えられてきた人々が、自分の言葉で自分の考えを述べ、平和への態度表明を始めたことであった。これを“SEALDs現象”と称する者もいたほどである。

法律学や政治学を探究する者も、研究室から国会前に飛び出し、自らの態度表明を行った。あらためて立憲主義・立憲国家が時代の言葉となり、「立憲デモクラシーの会」や「安全保障関連法に反対する学者の会」も誕生し、安全保障関連法の廃止を求める維持可能な運動が、いまでも続けられている。

これは、憲法が国民・平和を守ることを自明として、だからその憲法を護るといった考え方から、主権者が憲法で人間・平和を守るという考え方への転換ということがいえる。もちろん憲法が保障する基本的人権その他の憲法的原理・価値の充実化・豊富化の不断の努力は不可欠であるが、主権者が主体的に憲法的原理・価値を実現する第一歩として、おおいに評価したい。一連の動きを、単なる“SEALDs現象”にとどめず、“SEALDs運動（ムーヴメント）”へと止揚したいものである。2016年は、奇しくも日本国憲法公布70年の年であり、新たな憲法運動への発展を心から期待したい。

さて、今年度定年退職される三人の先生方は、まさに1945年生まれであり、敗戦後70年、三者三様、それぞれの生と命を享受されてきたところであろうが、日本国憲法の理念、とりわけ国民主権・民主主義・基本的人権保障の具体化にむけた学問的営みを維持・探究されてきた点で共通するものと拝察する。

小沼堅司先生は、「初期ヘーゲルにおける社会—政治認識の形成過程」（中央大学修士論文）から始まり、『ユートピアの鎖—全体主義の歴史経験』（成文社）を経て、最近著『イデオロギーとテロル 共産主義的全体主義独裁制における恐怖と狂気のシンフォニー』（志学社）にいたるまで、一貫して、社会主義、共産主義および全体主義に対する批判的検討を著されてきたが、その通奏低音は、あるべき民主主義の探究にほかならないのであろう。小沼先生は、在職40年間、法学部長、法科大学院設置準備委員会委員をはじめとする各種委員を務められ、なかでも政治学科の設置には特に尽力されるなど、法学部のために多大なご貢献をされたほか、学内行政においては、21世紀構想会議委員長をはじめとして、多くの全学的役職を務められ、専修大学の民主的発展のために多大なる貢献を果たされたことに感謝申し上げたい。

木幡文徳先生は、「生存配偶者の相続権をめぐる諸問題」（専修大学修士論文）から始まる家族法・親族法研究において、特に「アメリカにおける子の監護権——テンダー・イヤー・ドクトリンからジョイント・カストディへ」（専修法学論集44号）では、いち早く離婚後の共同親権のあり方を紹介されるなど、婚姻法・離婚法の第一人者である。最近のご研究では、市民社会へのまなざしのなかで家族を観る試みもある（「民法における家族と市民社会—家族の個人性と団体性—」『「市民社会と共生」・東アジアに生きる』）。ご研究

の成果は、長きにわたる東京家庭裁判所調停委員・参与のお仕事で生かされるところであり、社会的貢献も顕著である。学内行政では、在職43年間、法学部では法学部長をはじめとする各種委員、全学的には図書館長、今村法律研究室長など、ほとんどすべての役職を務められ、専修大学への貢献は他に類をみないものであり、感謝に堪えない。

広渡清吾先生の「財産管理権論への一アプローチ—財産管理権概念の史的基礎と論理構造」（京都大学助手論文）から始まったご研究は、主な単著本だけを掲げても、『法律からの自由と逃避—ワイマル共和制下の私法学』（日本評論社）、『統一ドイツの法変動—ドイツ統一の一つの決算—』（有信堂）、『比較法社会論研究』（日本評論社）、『知的再生産構造の基盤変動』（信山社）、そして『ドイツ法研究：歴史・現状・比較』（日本評論社）など多数に及ぶ。特に日独学術交流における貢献は顕著で、ドイツ連邦共和国から「功勞十字章」を授与されている。日本学術会議会長も務められ、ご著書『学者にできることは何か』（岩波書店）は、世界の解釈者ではなく、変革の主体たるべき学者の生き方を問うている。その精神は、先の「学者の会」の行動でも生かされている。その学術的・社会的貢献によって、本学の学術・研究・教育に多大なる貢献をされたことに感謝申し上げたい。

末筆ながら、先生方のこれまでのご貢献に心より感謝申し上げ、また、これからの一層のご活躍・ご発展を祈念して、本書を捧げさせていただきます。

2016年3月吉日

専修大学法学部長 白藤博行